

議題1 2021年度下期の操業状況

1. 施設の稼働状況
2. PCB 廃棄物の搬入・搬出・処理
3. 排出源モニタリング及び敷地境界での測定結果
4. 運転時のトラブルの状況とその対応
5. 作業従事者の労働安全衛生について
6. ヒヤリハット活動(HHK)の状況と対応
7. 教育・訓練等の実施状況
8. 施設見学の状況

1. 2021 年度下期の操業状況

表 1 に 2021 年度の操業状況を示す。

処理実績については、2 月までの実績値に加え、3 月の見込値を計上し、2021 年度累計は年度実績予想とした。

表 1 2021 年度の操業状況

設備等		2021年度													2021年度 実績予想	2021年度 計画	計画比 %
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月見込				
水熱設備 稼働状況	1					点検停止			計画停止			点検停止					
	2										点検停止				214日	216日	99
	3												点検停止				
処理対象物	変圧器	台数	2	0	0	7	2	3	4	13	3	11	7	26	78	138	57
	コンデンサ-	台数	989	0	170	743	737	763	731	384	763	634	567	519	7,000	7,000	100
	廃PCB油	重量 kg	4,232	0	15	124	16	25	62	29	192	148	1,596	3,578	10,017	11,167	90
	リン含有PCB油	重量 kg	10,105	0	6,065	12,133	14,179	16,197	16,193	16,164	16,178	18,201	14,161	17,077	156,653	156,653	100

稼働 稼働予定

1) 水熱設備の稼働状況

水熱分解設備（No.1～3 系列）では、変圧器及びコンデンサーに含まれる PCB 油、ドラム缶等で受け入れた廃 PCB 油及びリン含有 PCB 油等を処理している。

水熱分解設備の下期の運転状況については、2 基運転で安定的に稼働しており、水熱分解設備の稼働日数の 2021 年度実績予想は計画比 99%である。

2) 変圧器の処理状況

図1に2021年度の変圧器の処理状況を示す。

変圧器の2021年度の処理実績（予想）では、台数は計画138台に対し78台で計画との差異は60台減であった。60台減の要因は45台が低濃度と判明等による減、残り15台の減は分析確認中のJESCO未登録分で2022年度に処理する計画に変更したものがある。

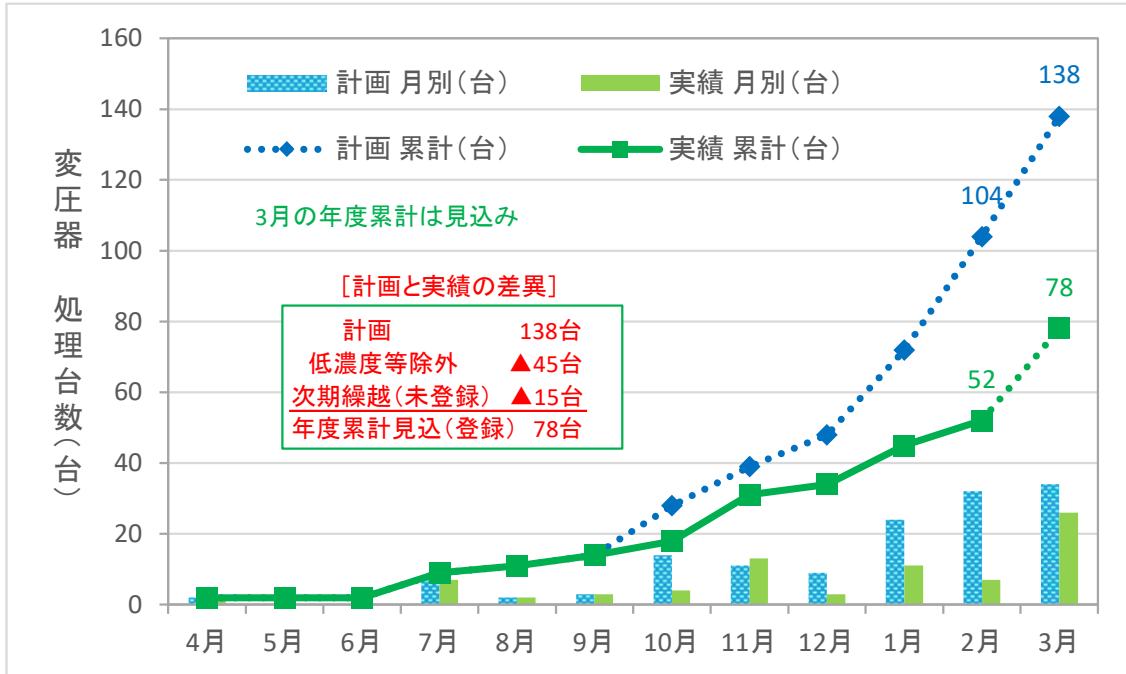


図1 変圧器処理の月別・累計値(計画と実績比較)

3) コンデンサーの処理状況

図2に2021年度のコンデンサーの処理状況を示す。

コンデンサーの2021年度の処理実績（予想）では、計画7,000台に対し7,000台で、計画通り進捗している。

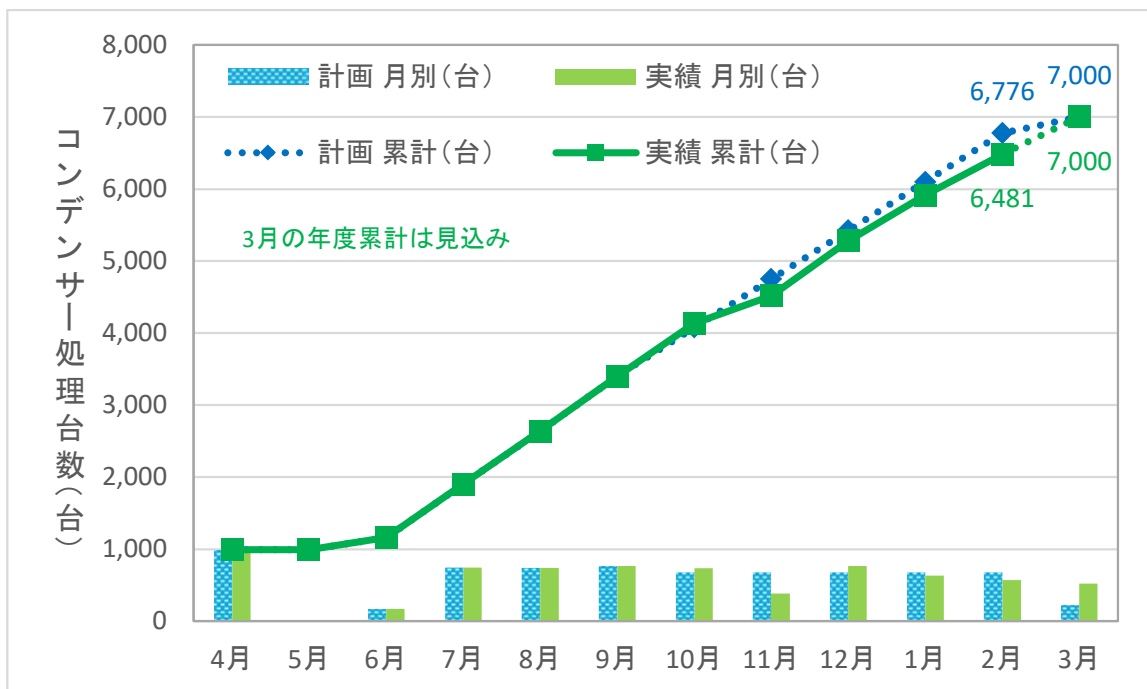


図2 コンデンサー処理の月別・累計値(計画と実績比較)

4) 廃 PCB 油の処理状況

廃 PCB 油（リン含有 PCB 油を除く）の 2021 年度の処理実績（予想）は、計画 11 t に対し 10 t で、概ね計画通り進捗している。

5) リン含有 PCB 油の処理状況

図 3 に 2021 年度のリン含有 PCB 油の処理状況を示す。

リン含有 PCB 油の処理実績（予想）は、計画に対し 157 t 処理で、計画通り本年度末までに全処理対象量の 287 t の処理を完了できる見込みである。

なお、保管事業者より 3 月 8 日の搬入を最後に、リン含有 PCB 油を保管タンクからドラム缶へ拔出することができなくなり、底部にスラッジが残っている旨の連絡を受けた。スラッジは、保管事業者がタンクから抜き出してドラム缶に回収し、その他汚染物として北海道事業所で処理されることとなるが、上澄み液が生じた場合には、2022 年度に当事業所で処理する予定である。処理量及び搬入時期等については、今後、保管事業者と協議していく。

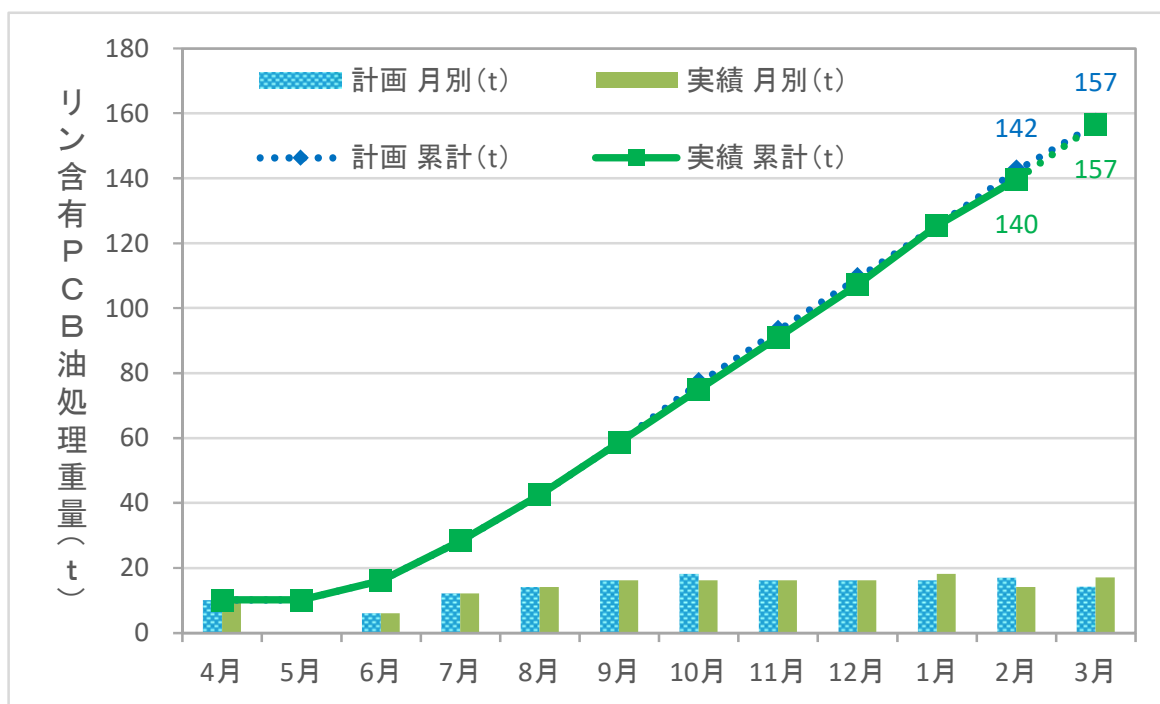


図 3 リン含有 PCB 油処理の月別・累計値(計画と実績比較)

2. PCB廃棄物の搬入・搬出・処理

1) PCB廃棄物搬入車両の状況

2021年度の2月までの月別PCB廃棄物搬入車両台数及び大阪PCB処理事業所、北九州PCB処理事業所からの廃粉末活性炭の搬入車両台数を表2に示す。

関係法令やPCB廃棄物収集・運搬ガイドライン、受入基準に基づく入門許可手続き、PCB収集運搬計画書による事前の確認、PCB廃棄物の収集運搬時の安全性の高い運搬容器の使用、運搬中のGPSシステムを利用した監視等により、安全な搬入体制を確保していく。

表2 2021年度のPCB廃棄物搬入車両の台数

月度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	年度累計
搬入車両台数	21	0	78	92	77	85	87	86	93	94	89	802
大阪事業所から	0	0	2	1	1	1	2	2	1	1	1	12
北九州事業所から	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2) 二次廃棄物の搬出実績

表3に二次廃棄物について、低濃度汚染物、廃アルカリ液及び高濃度汚染物の搬出実績を示す。概要は以下の通りである。

(1) 低濃度汚染物の無害化処理認定施設への搬出実績

- ・PCB濃度が5,000ppm以下の低濃度汚染物については、東京都ならびに江東区との間で搬出は月6台以下、搬出数量は約30t以下の運用を取り決めている。
- ・低濃度汚染物の2021年度下期の月別搬出は、重量約17~26t/月、車両台数4~6台/月であり、取り決めの範囲内で搬出を行っている。

(2) 廃アルカリ液(低濃度PCB)の無害化処理認定施設への搬出実績

- ・リン含有PCB油の前処理に伴って発生するPCB濃度が5,000ppm以下の廃アルカリ液の搬出については、東京都ならびに江東区との間で月4台以下、33t以下の運用を取り決めている。
- ・廃アルカリ液の2021年度下期の月別搬出は、14~約32t/月、2~4台/月であり、取り決めの範囲内で搬出を行っている。

(3) 高濃度汚染物の北海道事業所への搬出実績

- ・高濃度汚染物については、2014年6月の「PCB廃棄物処理基本計画」の改訂により東京事業所では処理が困難なものは北海道事業所で処理することができることとなり、北海道事業所の最大受け入れ量は160tである。
- ・2021年度2月までの北海道事業所への搬出実績は、計画25tに対し約17tである。

3) 二次廃棄物の事業所内での処理実績

- ・工事やメンテナンスにより発生したPCBに汚染された交換機器や配管等の工事廃材等の金属類やプラスチック類等は、洗浄処理を行って有価売却または産業廃棄物として委託処理を行っている。
- ・2021年度2月までの処理実績は約24tである。

表3 二次廃棄物等の搬出状況

月・日	搬出先	種別	低濃度 数量(t)	廃アルカリ 数量(t)	高濃度 数量(t)
2021年					
4月		計 トラック台数 8台(低濃度 5台、廃アルカリ 3台、高濃度 0台)	24.987	23.393	0.000
5月		計 トラック台数 2台(低濃度 1台、廃アルカリ 1台、高濃度 0台)	3.767	5.893	0.000
6月		計 トラック台数 2台(低濃度 2台、廃アルカリ 0台、高濃度 0台)	8.412	0.000	0.000
7月		計 トラック台数 10台(低濃度 5台、廃アルカリ 3台、高濃度 2台)	20.142	24.311	2.730
8月		計 トラック台数 9台(低濃度 5台、廃アルカリ 3台、高濃度 1台)	22.063	26.422	1.305
9月		計 トラック台数 9台(低濃度 5台、廃アルカリ 4台、高濃度 0台)	19.818	31.709	0.000
上期計			99.189	111.728	4.035
10月	5日	㈱ 群桐エコロ 処理物(廃アルカリ液)		8.861	
	7日	㈱ 群桐エコロ 運転廃棄物(インナー手袋)	2.100		
		運転廃棄物(粘着テープ)	0.800		
	14日	㈱ 群桐エコロ 処理物(紙・木)	3.382		
	15日	㈱ 群桐エコロ 処理物(廃アルカリ液)		6.866	
	18日	北海道事業所 高濃度廃棄物(ボートグローブ、紙・布、分析廃液)			1.295
	19日	㈱ 赤城鉱油 運転廃棄物(金属くず・廃プラスチック)	2.610		
		運転廃棄物(コンクリートくず)	4.006		
	21日	㈱ 群桐エコロ 処理物(廃アルカリ液)		8.819	
	22日	㈱ 群桐エコロ 運転廃棄物(ゴム手袋)	0.694		
		運転廃棄物(紙・布)	0.308		
		運転廃棄物(吸着マット)	0.075		
		処理物(紙・木)	1.868		
	25日	北海道事業所 高濃度廃棄物(ボートグローブ、紙・布、分析廃液、塵芥混合物)			1.512
	27日	㈱ 群桐エコロ 運転廃棄物(廃活性炭)	7.500		
	28日	㈱ 群桐エコロ 運転廃棄物(アルコール含浸紙)	1.200		
		運転廃棄物(保護具類)	0.600		
		運転廃棄物(硬質プラスチック)	0.950		
	28日	㈱ 群桐エコロ 処理物(廃アルカリ液)		7.053	
		計 トラック台数 12台(低濃度 6台、廃アルカリ 4台、高濃度 2台)	26.093	31.599	2.807
11月	4日	㈱ 群桐エコロ 処理物(廃アルカリ液)		8.864	
	8日	北海道事業所 高濃度廃棄物(ボートグローブ、紙・布、分析廃液、塵芥混合物)			1.318
	9日	㈱ 群桐エコロ 運転廃棄物(アルカリ中和汚泥)	2.696		
	10日	㈱ 群桐エコロ 処理物(廃アルカリ液)		7.052	
	11日	㈱ 群桐エコロ 運転廃棄物(紙・布)	0.004		
		処理物(紙・木)	2.504		
	17日	㈱ 群桐エコロ 運転廃棄物(廃活性炭)	7.500		
	18日	㈱ 群桐エコロ 処理物(廃アルカリ液)		8.863	
	22日	北海道事業所 高濃度廃棄物(ボートグローブ、紙・布、塵芥混合物)			1.429
	24日	㈱ 群桐エコロ 運転廃棄物(保温材、アルコール含浸紙、ゴム手袋)	1.450		
	25日	㈱ 群桐エコロ 処理物(廃アルカリ液)		7.053	
	25日	㈱ 群桐エコロ 運転廃棄物(フィルム、化学防護服)	0.358		
		処理物(紙・木)	2.370		
		計 トラック台数 11台(低濃度 5台、廃アルカリ 4台、高濃度 2台)	16.882	31.832	2.747
12月	2日	㈱ 群桐エコロ 処理物(廃アルカリ液)		8.863	
	6日	北海道事業所 高濃度廃棄物(紙・布、塵芥混合物)			1.116
	8日	㈱ 群桐エコロ 処理物(廃アルカリ液)		7.050	
	9日	㈱ 群桐エコロ 運転廃棄物(廃活性炭)	7.500		
	15日	㈱ 群桐エコロ 処理物(廃アルカリ液)		8.861	
	16日	㈱ 群桐エコロ 運転廃棄物(軟質プラスチック、吸収缶)	2.700		
	20日	北海道事業所 高濃度廃棄物(紙・布、塵芥混合物)			1.052
	22日	㈱ 群桐エコロ 処理物(紙・木)	3.541		
	22日	㈱ 群桐エコロ 処理物(廃アルカリ液)		7.051	
	23日	㈱ 群桐エコロ 処理物(加熱アルミ)	3.435		
		計 トラック台数 10台(低濃度 4台、廃アルカリ 4台、高濃度 2台)	17.176	31.825	2.168
1月	12日	㈱ 群桐エコロ 処理物(紙・木)	3.241		
	13日	㈱ 群桐エコロ 処理物(廃アルカリ液)		7.044	
	17日	北海道事業所 高濃度廃棄物(紙・布、ボートグローブ、塵芥混合物)			1.148
	18日	㈱ 群桐エコロ 処理物(紙・木)	3.443		
	19日	㈱ 群桐エコロ 処理物(廃アルカリ液)		6.885	
	20日	㈱ 群桐エコロ 運転廃棄物(廃活性炭)	7.500		
	24日	北海道事業所 高濃度廃棄物(紙・布、ボートグローブ、塵芥混合物)			1.411
	25日	㈱ 群桐エコロ 処理物(廃アルカリ液)		6.514	
	26日	㈱ 群桐エコロ 運転廃棄物(廃活性炭、アルコール含浸紙、保護具類、吸収缶)	4.600		
		運転廃棄物(保温材)	0.534		
		処理物(紙・木)	2.651		
	28日	北海道事業所 高濃度廃棄物(紙・布、ボートグローブ、塵芥混合物)			1.411
		計 トラック台数 10台(低濃度 5台、廃アルカリ 3台、高濃度 2台)	21.969	20.443	2.559
2月	7日	北海道事業所 高濃度廃棄物(紙・布、塵芥混合物)			0.995
	8日	㈱ 群桐エコロ 処理物(廃アルカリ液)		6.774	
	10日	㈱ 群桐エコロ 処理物(紙・木)	3.221		
	14日	北海道事業所 高濃度廃棄物(紙・布、ボートグローブ、塵芥混合物)			1.320
	15日	赤城鉱油㈱ 運転廃棄物(コンクリートくず)	7.667		
	17日	㈱ 群桐エコロ 運転廃棄物(廃活性炭)	7.500		
	17日	㈱ 群桐エコロ 処理物(廃アルカリ液)		7.014	
	22日	㈱ 群桐エコロ 運転廃棄物(廃活性炭、インナー手袋、ゴム類、安全靴、保温材、ゴム手袋、硬質プラスチック、マスク面体)	4.129		
	24日	㈱ 群桐エコロ 処理物(紙・木)	3.323		
	28日	㈱ 群桐エコロ 高濃度廃棄物(紙・布)			1.004
		計 トラック台数 10台(低濃度 5台、廃アルカリ 2台、高濃度 3台)	25.840	13.788	3.319
計			207.149	241.215	17.635

4) 他事業所で発生した二次廃棄物(廃粉末活性炭)の処理状況

- ・表 4 に廃粉末活性炭の処理計画を示す。
- ・2014 年 6 月の「PCB 廃棄物処理基本計画」の改訂により、北九州事業所及び大阪事業所で発生した二次廃棄物の廃粉末活性炭の一部を東京事業所で処理することとなった。
- ・廃粉末活性炭は東京事業所でスラリー化して水熱分解設備で処理を行っている。
- ・北九州事業所からの廃粉末活性炭は 7.6t を搬入し、2017 年度までに処理を完了した。
- ・現在、大阪事業所の廃粉末活性炭を搬入しており、2021 年度は 25t 処理する見通しである。

表 4 廃粉末活性炭の処理実績

2020年度末 累積処理量	2021年度 2月末 処理実績量	2021年度 3月 処理見込量	2021年度 実績見込量	2021年度末 累積処理量
150t (72.8%)	24 t	1 t	25 t	175t (85.0%)

() 内は処理対象量に対する累積処理量%

3. 排出源モニタリング及び敷地境界での測定結果

施設からの排気・換気や排水及び敷地境界の大気や雨水については定期的に測定を行い、処理状況とともに、東京都及び江東区へ毎月報告している。

敷地境界の大気質及び雨水排水の測定位置は図4に示すとおりである。

概要は以下のとおりであり、詳細は別紙1に示す。

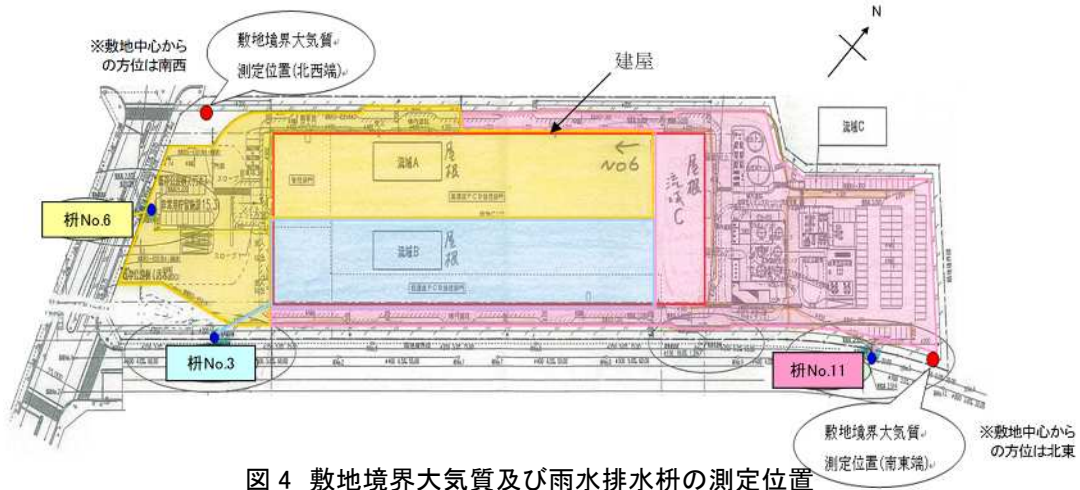


図4 敷地境界大気質及び雨水排水橋の測定位置

1) 排気・換気

2020年度と2021年度2月までの排気・換気の測定結果を表5に示す。

全て環境保全協定値を下回り、良好な状態を維持している。

表5 排気・換気の測定結果

測定場所	測定項目	単位	測定結果		環境保全協定値	測定頻度
			2020年度	2021年度(2月まで)		
排気系統1 (水熱分解・洗浄系)	PCB	mg/Nm ³	0.0005未満	0.0005未満~0.0008	0.01以下	月1回
	DXNs	pg-TEQ/Nm ³	0.033~1.1	0.0026~0.24	100以下	年4回
	IPA	ppm	0.1未満~0.1	0.1未満~0.4	40以下	年2回
排気系統2 (解体系)	PCB	mg/Nm ³	0.0005未満~0.0014	0.0005未満~0.0008	0.01以下	月1回
	DXNs	pg-TEQ/Nm ³	2.7~17	3.2~15	100以下	年4回
換気系統1 (水熱分解・洗浄系)	PCB	mg/Nm ³	0.00006~0.00050	0.00005未満~0.00053	0.001以下	月1回
	DXNs	pg-TEQ/Nm ³	0.018~0.095	0.045~0.053	5以下	年4回
換気系統2 (解体系)	PCB	mg/Nm ³	0.00008~0.00010	0.00007~0.00015	0.001以下	月1回
	DXNs	pg-TEQ/Nm ³	0.023~0.16	0.072~0.21	5以下	年4回

※ DXNsは、協定の年間2回に対し、自主測定も含め年4回(4月,7月,10月,1月)実施している。PCBは、協定の年間4回に対し、自主測定も含め毎月実施している。

2) 排水

2020年度と2021年度2月までの排水の測定結果を表6に示す。

全て環境保全協定値を下回り、良好な状態を維持している。

表6 排水の測定結果

測定項目	単位	測定結果		環境保全協定値等	測定頻度
		2020年度	2021年度*		
PCB	mg/l	0.0005未満	0.0005未満	0.0015以下	月1回
pH	—	7.4~8.1	7.7~8.1	5を超え9未満	月1回
n-Hex抽出物質	mg/l	1未満	1未満	5以下	月1回
BOD	mg/l	0.5未満~2.4	0.9~4.1	600以下	月1回
SS(浮遊物質)	mg/l	1未満~5	1~13	600以下	月1回
N(全窒素)	mg/l	2.7~5.8	2.6~7.9	120以下	月1回
DXNs	pg-TEQ/l	0.011~1.3	0.31~0.46	5以下	年2回
Zn(亜鉛)	mg/l	0.05未満~0.23	0.05未満~0.18	2以下	月1回
P(リン)	mg/l	0.06未満~0.17	0.06未満~0.24	16以下	月1回

3) 敷地境界の大気質

敷地境界の大気質 PCB 濃度に関し、直近 4 回の測定結果を表 7 に示す。

全て定量下限値 (0.0005mg/m³) 未満で、管理指標としている暫定濃度を下回っている。

表 7 敷地境界の大気測定結果(PCB)

測定項目	測定箇所	測定日	測定結果	風向	暫定濃度	測定頻度
PCB mg/m ³	南東端	2021.4.7~14	0.0005未満	南	0.005 以下	年4回
		2021.7.15~22	0.0005未満	南南西		
		2021.10.6~13	0.0005未満	北東・南南西		
		2022.1.20~27	0.0005未満	北北西		
	北西端	2021.4.7~14	0.0005未満	南	0.005 以下	年4回
		2021.7.15~22	0.0005未満	南南西		
		2021.10.6~13	0.0005未満	北東・南南西		
		2022.1.20~27	0.0005未満	北北西		

※ 暫定濃度は環境庁大気保全局長通達(昭和47年環大気141号)に基づく。

敷地境界の大気質 DXNs 濃度に関し、直近 4 回分の測定結果を表 8 に示す。直近 4 季平均値は管理指標としている年間平均値で評価する環境基準値 (0.6pg-TEQ/m³) 以下であった。

表 8 敷地境界の大気測定結果(DXNs)

測定項目	測定箇所	測定日	測定結果	風向	年平均値	環境基準値	測定頻度
DXNs pg-TEQ/m ³	南東端	2021.4.7~14	0.042	南	0.087	年平均 0.6以下	年4回
		2021.7.15~22	0.26	南南西			
		2021.10.6~13	0.024	北東・南南西			
		2022.1.20~27	0.020	北北西			
	北西端	2021.4.7~14	0.092	南	0.172	年平均 0.6以下	年4回
		2021.7.15~22	0.51	南南西			
		2021.10.6~13	0.067	北東・南南西			
		2022.1.20~27	0.017	北北西			

※ 環境保全協定書における測定頻度は年1回であるが、現在は自主測定として年4回実施している。

敷地境界大気質 DXNs 濃度の推移を図 5 示す。

2019 年 7 月の北西端 1.9pg-TEQ/m³ の高値出現以降も南風が主風向となる夏に濃度が高い傾向は継続しており、引き続き推移を注視していく。

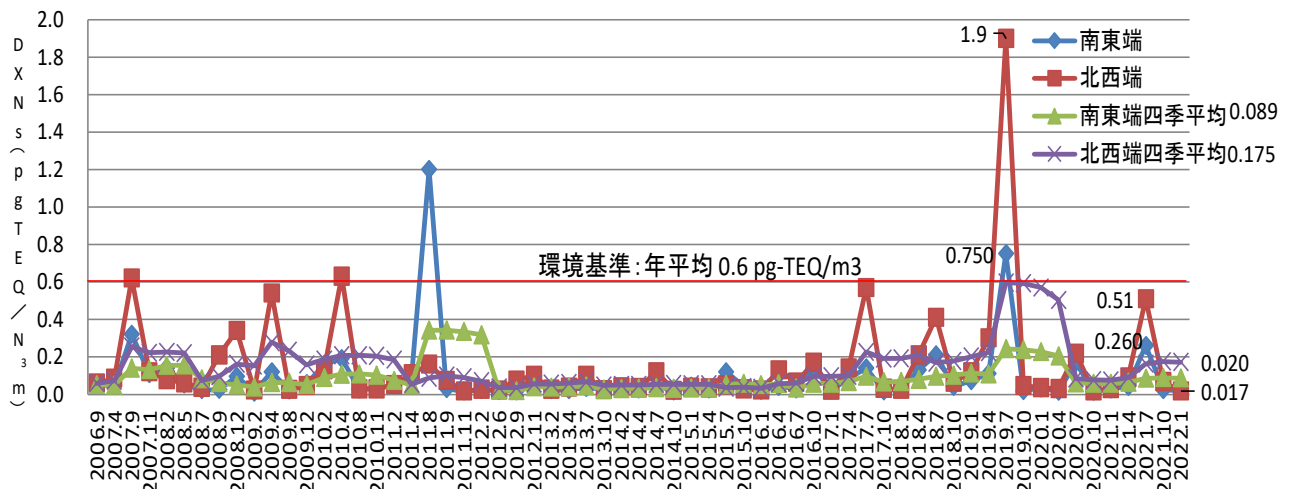


図 5 敷地境界の大気測定結果の推移(DXNs)

4) 雨水

2021年7月及び2022年2月測定 of 雨水 PCB と DXNs 濃度を表9に示す。いずれも環境保全協定値を下回っていた。

表9 雨水の PCB と DXNs の測定結果

測定箇所	測定項目	単位	測定日	測定結果	自主管理目標値	測定頻度
No.3雨水枡	PCB	mg/ℓ	2021.7.29	不検出	0.0015以下	年2回
			2022.2.16	不検出		
	DXNs	pg-TEQ/ℓ	2021.7.29	0.87	5以下	年2回
			2022.2.16	0.012		
No.6雨水枡	PCB	mg/ℓ	2021.7.29	不検出	0.0015以下	年2回
			2022.2.16	不検出		
	DXNs	pg-TEQ/ℓ	2021.7.29	0.29	5以下	年2回
			2022.2.16	0.16		
No.11雨水枡	PCB	mg/ℓ	2021.7.29	不検出	0.0015以下	年2回
			2022.2.16	不検出		
	DXNs	pg-TEQ/ℓ	2021.7.29	3.3	5以下	年2回
			2022.2.16	0.090		

* 環境保全協定書における測定頻度は年1回であるが、自主測定を含め年2回実施している。

また、雨水の DXNs のこれまでの濃度推移を図6に示す。
夏に濃度が高い傾向が継続しており、引き続き推移を注視していく。

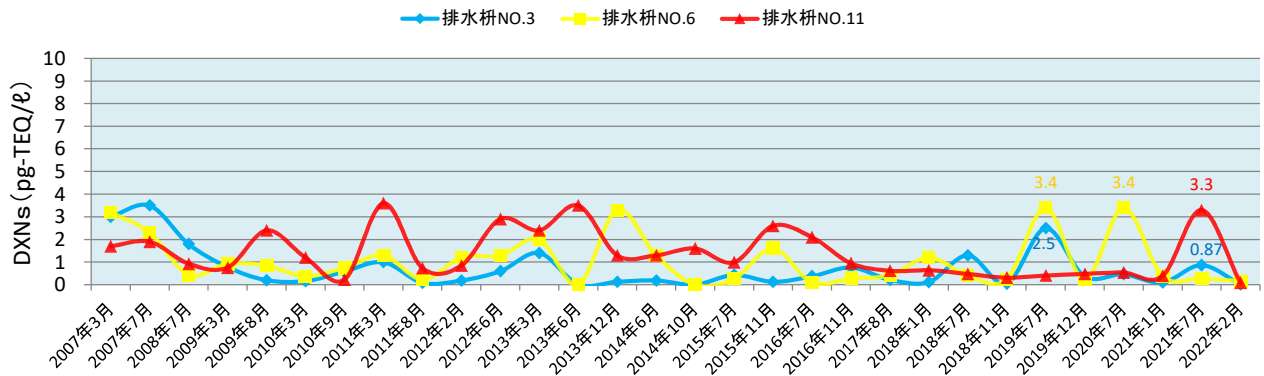


図6 雨水ダイオキシン測定結果の推移

4. 運転時のトラブルの状況とその対応

標準作業手順書の遵守、巡視点検による不具合の予兆管理と適切な設備保全等を徹底し、また東京事業所のトラブル事例研修等の教育、他事業所トラブルの水平展開等を着実に実施した結果、2021年度は運転時のトラブルの発生はなかった。

5. 作業従事者の労働安全衛生について

1) 作業環境の維持・向上

1%以上のPCBを取り扱う作業場3箇所、「除染室」、「コア解体鉄心解体(囲い場)」及び「コア解体小物解体(囲い場)」は、労働安全衛生法に基づき、年2回の作業環境測定が義務付けられており、毎年夏季及び冬季に行っている。法定測定3ヶ所の測定結果は同法に基づく第1管理区分であり、良好な状態を維持している。

また、法定以外の作業場についても年2回の作業環境測定を行っている。

JESCO及び運転会社は協同のワーキンググループで作業環境改善について、PDCAを回しながら課題解決を図り、作業環境の維持・向上に取り組んでいる。

2) 血液中PCB濃度の測定に基づく作業者の健康管理

作業従事者の血液中PCB濃度の基準値25ng/g-血液が定められており、毎年8月の定期健診に合わせて測定を行っており、超過者はいない。

東京事業所では、さらに厳しい自主管理目標値を10ng/g-血液以下に定め、全作業従事者の目標達成に向けて諸対策を実施して取り組んでいる。超過者は1名であり、2017年よりPCB暴露がない作業に従事させ、経過観察している。

6. ヒヤリハット活動(HHK)の状況と対応

作業員個々の危険予知の感性向上のため、出来るだけ多くのヒヤリハット報告を呼びかけている。

また、ヒヤリハットの経験からの気付いたリスクへの改善提案の提出を作業員に促し、作業安全の向上を図っている。

7. 教育・訓練等の実施状況

1) 安全教育・訓練の実施状況

全員が受講する教育訓練・研修の他、職種、経験、職長、担当者等に応じた研修カリキュラムにより、年間を通じて計画的に教育・訓練を行っている。



産業医衛生講話「糖尿病」(12/16)



普通救命講習(1/19)

図7 所内教育訓練の様子

2) 総合防災訓練等の実施

2021年度の総合防災訓練を11月29日に実施した。実施状況を表10に示す。

表10 総合防災訓練の実施状況

実施日	訓練計画	主な訓練結果
2021年 11月29日	<p>○訓練目的</p> <p>(1) 公設消防対応(公設消防との合同訓練)</p> <p>(2) 地震及び災害発生における初動活動の理解と検証</p> <p>(3) 隣接会社との合同訓練(避難)</p> <p>○訓練想定</p> <p>(1) 平日昼間に地震発生、震源地:東京湾北部、震度:5強200ガル(装置は地震計連動で停止)</p> <p>(2) 屋外タンク(IPAタンクで付属配管から漏洩、バルブ閉止、防液提亀裂部に土嚢構築)</p> <p>(3) 漏洩油に火災発生、自火報発報、現場確認、初期消火、一斉放水</p> <p>(4) 負傷者発生、応急処置、救急車に搬送</p> <p>○訓練内容</p> <p>(1) 所内総合防災訓練計画、訓練シナリオによる。</p>	<p>(1) ほぼシナリオ通りに実施され、訓練時間は予定通り約1時間半で終了。</p> <p>(2) 訓練シナリオは概要のみとし、各班毎に自分達の具体的な行動を事前に検討し、訓練を実施した。</p> <p>(3) 深川消防署(有明分署)、東京都、江東区の講評を頂いた。所内反省会での意見とともに、今後の訓練に活かしていく。</p>

緊急時通報訓練は年間3回計画としており、4月と9月に続き(前回委員会2021.12.26報告)、12月24日に3回目を実施した。実施概要を表11に示す。

表11 緊急時通報訓練の実施状況

実施日	訓練計画	主な訓練結果																								
2021年 12月22日 通報訓練 (3回目)	<p>○訓練目的</p> <p>夜間・休日における緊急時連絡体制が維持され、円滑な通報が行なわれることを確認する。</p> <p>○訓練想定</p> <p>18時50分頃、洗浄液タンク室IPAタンクの元弁フランジ部から漏洩発生。ボルト増し締めで漏洩停止、漏洩量は約100リットル、防液堤外への流出なし。漏洩液回収作業中、終了は19:30頃の見込み。</p> <p>○訓練内容</p> <p>「緊急時連絡体制表」及び「事業所連絡網」に従い、訓練実施。</p> <p>(1) 緊急異常事態を中制で覚知</p> <p>(2) 中制(当直長)より、「緊急時連絡体制表」に基づき、JESCO運転管理課長(連絡不可のため課長代理)、TEO幹部に電話連絡</p> <p>(3) JESCO通報訓練</p> <p>運転管理課長(課長代理)より所長に連絡し指示を受ける(所長不在で省略)。事業所連絡網に従い、事業所幹部へ連絡。安全対策課長より各職員へメールで連絡</p> <p>(4) 運転会社内通報訓練</p>	<p>(1) 「緊急時連絡体制表」及び「事業所連絡網」に基づく緊急時連絡体制が維持されていることを確認した。</p> <p>(2) 対象者(12月度:56名)に訓練メールが配信され全員から受信内容確認の返信を確認した。</p> <p>(3) 通報所要時間は、概ね1時間以内で返信した者が占めた。詳細は以下の通り</p> <p>4月度訓練結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>返信時間</th> <th>返信者割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30分以内</td> <td>68</td> </tr> <tr> <td>30~60分</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>60分以上</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <p>9月度訓練結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>返信時間</th> <th>返信者割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30分以内</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>30~60分</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>60分以上</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>12月度訓練結果</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>返信時間</th> <th>返信者割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>30分以内</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>30~60分</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>60分以上</td> <td>18</td> </tr> </tbody> </table>	返信時間	返信者割合(%)	30分以内	68	30~60分	19	60分以上	13	返信時間	返信者割合(%)	30分以内	78	30~60分	14	60分以上	8	返信時間	返信者割合(%)	30分以内	67	30~60分	15	60分以上	18
返信時間	返信者割合(%)																									
30分以内	68																									
30~60分	19																									
60分以上	13																									
返信時間	返信者割合(%)																									
30分以内	78																									
30~60分	14																									
60分以上	8																									
返信時間	返信者割合(%)																									
30分以内	67																									
30~60分	15																									
60分以上	18																									

2020年10月10日に発生した水熱分解設備の蒸気漏洩トラブルの再発防止対策の一つとして緊急異常時脱圧対応訓練を交替勤務の全4直を対象に実施した。実施概要を表12に示す。

表12 緊急異常時脱圧訓練の実施状況

実施日	訓練計画	主な訓練結果
2021年 10月18日(A直) 10月27日(B直) 11月10日(C直) 11月16日(D直)	<p>○訓練目的</p> <p>(1)夜間・休日において、火災や有害物質の漏洩などが発生した際に行う初動活動と、異常時脱圧操作を訓練し、安全確実な対応ができるよう経験値を高める。</p> <p>(2)緊急連絡体制による通報、事象の把握と報連相、環境汚染の防止、事象の拡大防止と設備の安全停止を確実に実施する。</p> <p>○訓練内容</p> <p>(1)水熱分解設備 保守インターロック及びシーケンシャル停止手順書に従って訓練を実施。</p> <p>(2)火災報知器が複数発報し、事故発生の初期段階では火災か蒸気漏洩か確認できない前提で訓練を実施。</p>	<p>(1)手順書に従って脱圧操作が確実に実施できた。</p> <p>(2)ITVIによる現場の確認や避難指示、人員確認など人身の安全を確保する行動が確実に実施された。</p> <p>(3)公設消防への模擬連絡、JESCO運転管理課長への報告、TEO所長への報告など、事象の把握と報告が確実に行われた。</p> <p>(4)緊急脱圧はJESCOの許可を得て実施する手続きが必要なことを訓練で確認した。</p>

夜間休日防災訓練は、交替勤務の防災訓練で、全4直を対象に実施した。実施概要を表13に示す。

表13 夜間・休日防災訓練の実施状況

実施日	訓練計画	主な訓練結果
2021年 12月20日(C直) 2022年 1月14日(A直) 3月4日(B直) 3月16日(D直)	<p>○訓練目的</p> <p>(1)夜間・休日における防災体制および初動活動の理解と検証</p> <p>(2)初動活動手順書の検証(覚知情報の確認と判定、門警備対応、公設消防対応)</p> <p>(3)粉末消火設備の使用手順書の検証</p> <p>○訓練想定</p> <p>(1)夜間・休日に地震発生、震源地:東京湾北部、震度:5強200ガル(装置は地震計連動で停止)</p> <p>(2)地震により1階解体前洗浄室、解体前洗浄溶剤供給タンク出口自動弁よりNS100が漏洩(約100リットル)</p> <p>(3)回収作業中に漏洩液に着火、初期消火(消火器使用)も鎮火困難、粉末消火設備を使用</p> <p>○訓練内容</p> <p>(1)訓練シナリオによる。</p>	<p>(1)全直においてスムーズに訓練を進めることができていた。</p> <p>(2)シナリオを見ずに訓練を進めることができています。各人が考えて行動することができるようになってきた。</p> <p>(3)各直の訓練後の反省会においては、細かな気付き、各立場からの活発に意見が出された。反省点は今後の訓練に反映していく。</p>

8. 施設見学の状況

施設見学の経年状況を表 14 に示す。

新型コロナウイルス感染防止対策のため、2020 年 3 月より見学者の受け入れ停止を継続していたが、2021 年 9 月 30 日に緊急事態宣言が解除されたことを契機に、10 月 4 日に受入れを再開している。

今年度は 11 月から 2 月までに 2 件 11 名の見学者を受け入れており、感染防止対策マニュアルに従ってご案内した。

現状の見学が困難な状況への対応として、見学者用のビデオ動画を 2021 年 8 月より JESCO ホームページ上で公開して設備や処理の状況を視聴できるようにし、より多くの方々に理解を広められるよう努めている。

表 14 施設見学件数・見学者数

年度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021*	累計
件数(件)	65	85	130	143	147	114	69	90	92	69	68	90	78	44	36	0	2	1,322
見学者数(名)	1,048	1,310	1,938	1,669	1,578	1,292	596	823	1,235	665	861	813	816	540	513	0	11	15,708

* 2022年2月まで